

事 務 連 絡

2019年3月18日

都道府県支部
事務局 御中

公益財団法人 全日本軟式野球連盟
事 務 局

2019年度競技者必携改訂事項の周知について(依頼)

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

標記の件につきまして、「競技者必携2019年版」改訂事項について、別紙一覧の通り、送付致します。競技者必携の巻頭に一覧表を掲載しておりますが、最終版との認識でお取り扱いいただき、支部内でのチーム・審判員へのご周知をご依頼致します。

以上、何卒よろしくお願い致します。

記

■添付資料

- ・2019年度 競技者必携改訂(抜粋版)

以上

事務担当者:吉岡大輔 TEL:03-3404-8831

2019 年度 競技者必携改訂（抜粋版）

2019 年版競技者必携の改訂事項は下記の通りとします。

2019 年版巻頭に 2018 年版との比較対比表を掲載していますが、赤字箇所は、誤記および製本後の決定による修正および変更箇所となります。

2018年版頁	2018	2019年版頁	2019改正
		3	野球競技場区画線（中学女子）を追加
14	◆天皇賜杯、国民体育大会、高松宮賜杯、東日本・西日本、中部日本、東・西選手権、日本スポーツマスターズ	16	◆天皇賜杯、国民体育大会、高松宮賜杯、東日本・西日本、中部日本、東・西選手権、日本スポーツマスターズ、 <u>全日本シニア</u>
14	3 参加申込書（登録原簿）提出後は、選手の追加、変更および背番号の変更は認めない。国民体育大会は、…第6条を参照のこと。日本スポーツマスターズの参加資格、…実施要項参照のこと。	16	3 参加申込書（登録原簿）提出後は、選手の追加、変更および背番号の変更は認めない。国民体育大会は、…第6条を参照のこと。日本スポーツマスターズの参加資格、…実施要項参照のこと。 <u>全日本シニアは、公益財団法人全日本軟式野球連盟規程第6条第2項の一般チームを基本とするが、参加選手は、本大会および県大会、末端支部大会に出場するため、所属チーム以外のチームから出場することを認める。</u>
14・15	6 ベンチに入れる人員	16・17	6 ベンチに入れる人員 (3) <u>全日本シニアは、登録されたユニフォームを着用した監督30番を含む選手20名以内とチーム代表者、マネージャー、スコアラー、トレーナー等（有資格者）各1名とする。監督、マネージャー、スコアラー、トレーナー等が選手を兼ねる場合には、選手登録をし選手20名以内の範囲とする。</u>
15・16		18	12 <u>選手の交代は、監督がタイムを掛け球審に申し出ること。</u>
16・17	13 打者が頭部にヒット・バイ・ピッチを受けたときには、球審は攻撃側監督と協議し臨時代走の処置を行うことができる。	18・19	14 打者が頭部にヒット・バイ・ピッチを受けたときには、球審は攻撃側監督と協議し臨時代走の処置を行うことができる。壘上の走者が負傷した場合で、一時走者を代えないと試合の中断が長引くと審判員が判断したときは、臨時代走の処置を行うことができる。
17・18	(2) 7回戦 ①ゲームは7回戦であるが、暗黒、降雨などで7回までインニングが進まなくとも5回を終了すればゲームは成立する。 ②国民体育大会の順位決定戦は、7回で勝敗が決しない場合には8回からタイブレーク方式を行う。 ③日本スポーツマスターズは指名打者制を採用することができる。 (公認野球規則5.11)	20	(2) 7回戦 ①日本スポーツマスターズ、全日本シニアおよび国民体育大会の順位決定戦は7回戦とする。 ②暗黒、降雨などで、7回までインニングが進まなくとも、5回を終了すればゲームは成立する。 ③国民体育大会の順位決定戦は、7回で勝敗が決しない場合には、8回からタイブレーク方式を行う。 ④日本スポーツマスターズおよび全日本シニアは、指名打者制を採用することができる。 (公認野球規則5.11)
18	2 延長戦 9回（7回）を完了して同点の場合は、健康維持を考慮し、次の方法により勝敗を決定する。 (1) 天皇賜杯大会、国民体育大会を除く大会は、最長12回までとする。 (2) マスターズの延長戦の回数は、最長9回までとする。 (3) 試合開始後、3時間30分（マスターズは2時間30分）を経過した場合は、新しい延長インニングに入らない。 (4) 前記(1)～(3)を終了しても、同点のときは、タイブレーク方式を行う。	20・21	2 延長戦 9回（7回）を完了して同点の場合は、健康維持を考慮し、次の方法により勝敗を決定する。 (1) 延長戦は12回（最長3回）まで、 <u>もしくは試合開始後、3時間を経過した場合は、新しいインニングに入らない。</u> (2) <u>天皇賜杯大会、国民体育大会では、試合開始後、3時間を経過した場合のみ、新しい延長インニングに入らない。</u> (3) <u>マスターズ、全日本シニア大会の延長戦は9回（最長2回）まで、もしくは試合開始後、2時間30分を経過した場合は、新しい延長インニングに入らない。</u> (4) 前記(1)～(3)を終了しても、同点のときは、タイブレーク方式を行う。

18	3 タイブレイク方式 継続打順で、前回の最終打者を一塁走者とし、二塁、三塁の走者は順次前の打者とする。すなわち、0アウト満塁の状態にして1イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。勝敗が決しない場合は、…	20・21	3 タイブレイク方式 継続打順で、前回の最終打者を一塁走者、 <u>その前の打者を二塁の走者とする。すなわち、0アウト・二塁の状態にして1イニングを行い、得点の多いチームを勝ちとする。勝敗が決しない場合は、…</u>
20	7 守備側のタイムの回数制限	22・23	7 守備側のタイムの回数制限 (3) <u>攻撃側のタイム中に守備側は指示を与えることができるが、攻撃側のタイムより長引けば守備側の1回とカウントされる。</u>
20	8 攻撃側のタイムの回数制限 攻撃側のタイムは、1試合に3回以内とする。なお、延長戦（タイブレイク方式を含む）は、2イニングに1回とする。	23	8 攻撃側のタイムの回数制限 (1) 攻撃側のタイムは、1試合に3回以内とする。なお、延長戦（タイブレイク方式を含む）は、2イニングに1回とする。 (2) <u>守備側のタイム中に攻撃側は指示を与えることができるが、守備側のタイムより長引けば攻撃側の1回とカウントされる。</u>
21・22	8 シートノック (1) 補助員としてコーチ（背番号28・29）を認める。補助員はヘルメットを着用すること。	24・25	8 シートノック (1) 補助員としてコーチ（背番号28・29）を認める。補助員はヘルメットを着用すること。なお、 <u>コーチ1人のブルペン捕手を認める。（試合開始前までの間を許可する）</u>
22・23	13 打者が頭部にヒット・バイ・ピッチを受けたときには、球審は攻撃側監督と協議し臨時代走の処置を行うことができる。	25・26	13 打者が頭部にヒット・バイ・ピッチを受けたときには、球審は攻撃側監督と協議し <u>臨時代走の処置を行うことができる。塁上の走者が負傷した場合で、一時走者を代えないと試合の中断が長引くと審判員が判断したときは、臨時代走の処置を行うことができる。</u>
24	1 正式試合 ③守備の時間が長い場合には健康維持を考慮し、審判員の判断で給水タイムを設けることとする。 (試合時間に入れない) 2 延長戦 7回を完了して同点の場合は、健康維持を考慮し延長戦は行わず直ちにタイブレイク方式とする。	27	1 正式試合 ③守備の時間が長い場合（概ね20分）には健康維持を考慮し、審判員の判断で給水タイムを設けることとする。（試合時間に入れない） 2 延長戦 7回を完了または5回終了時以降、 <u>試合開始後2時間30分を経過し同点の場合は、延長戦は行わず直ちにタイブレイク方式とする。</u>
24・25	3 タイブレイク方式 (1) 7回を完了または試合開始後2時間30分を経過した場合は、タイブレイク方式とする。 (2) タイブレイク方式は継続打順で、前回の最終打者を一塁走者とし、二塁、三塁の走者は順次前の打者とする。すなわち、0アウト満塁の状態にして1イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。タイブレイク方式は2イニングを限度とし、通常の延長戦と同様規則によって認められる選手の交代は許される。 (3) 2イニングを完了しても決着がつかないときは、抽選で勝敗を決定する。ただし、決勝戦の場合は、投手の投球制限を遵守の上、勝敗が決するまでタイブレイク方式を続行する。 (4) 抽選方法 ①審判員および… ②抽選用紙に… ③球審が18枚の… ④二人の審判員が… (5) 得点の記録 ①タイブレイク方式で… ②抽選で…	27・28	3 タイブレイク方式 (1) <u>継続打順で、前回の最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁走者とする。すなわち、0アウト一塁・二塁の状態にして、投手の投球制限を遵守の上、勝敗が決するまで続行する。</u> (2) <u>2イニングを完了しても決着がつかないときは、抽選で勝敗を決定する。ただし、決勝戦の場合は、投手の投球制限を遵守の上、勝敗が決するまでタイブレイク方式を続行する。</u> (3) <u>抽選で勝敗を決する場合</u> ①審判員および… ②抽選用紙に… ③球審が18枚の… ④二人の審判員が… (4) 得点の記録 ①タイブレイク方式で… ②抽選で…

27	投手の投球制限については、肘・肩の障害防止を考慮し、1日7イニングまでとする。ただし、タイブレーク方式の直前のイニングを投げ切った投手に限り、1日最大9イニングまで投げることができる。タイブレークとなった場合に投げるのできる投手は、タイブレーク方式の直前を投げ切った投手か、新たな投手（その日1球も投げていない選手）に限り、1日2イニングまで投げることができる。なお、学童部3年生以下にあっては、1日5イニングまでとする。投球イニングに端数が生じたときの取り扱いについては、3分の1回（アウト1つ）未満の場合であっても、1イニング投球したものとして数える。	29	投手の投球制限については、肘・肩の障害防止を考慮し、1人の投手は、1日70球以内を投球できる。試合中に70球に達した場合、その打者が打撃を完了するまで投球できる。 <u>注）2019年度の取り扱いは、全国大会において導入することとし、都道府県大会及び末端支部大会は、支部の判断で導入することとする。</u> <u>注）少年部ならびに女子大会の取り扱いについては、2019年度の改正は行わない。</u>
29・30	8 プレーヤーが… 9 守備側からのタイムで…	32・33	8 相手選手を威嚇する行為、プレイを利用して相手選手を欺く行為を禁止する。 9 プレーヤーが… 10 守備側からのタイムで…
30	2 投手（救援投手を含む）の準備投球は初回に限り、8球以内（1分以内）が許される。次回からは、4球以内とする。なお、季節または状況により考慮する。	33	2 投手（救援投手を含む）の準備投球は初回に限り、8球以内が許される。次回からは、4球以内とする。なお、季節または状況により考慮する。
41	(29) 監督またはコーチがマウンドへ行く制限について（5.10ℓ 関連） 監督またはコーチがマウンドへ行く回数のカウントの仕方について、アマチュア規則委員会より、2015年2月、MLBおよび国際大会の基準として、下記1～4が提示されたが、全日本軟式野球連盟では、下記の「1」と「4」は採用するが「2」と「3」は採用しない。	45	(29) 監督またはコーチがマウンドへ行く制限について（5.10ℓ） 監督またはコーチがマウンドへ行く回数のカウントの仕方について、アマチュア規則委員会より、2015年2月、MLBおよび国際大会の基準として提示された下記1～4を、全日本軟式野球連盟でも採用する。
42	(33) 試合に出ているプレーヤーの代走が認められる場合（臨時代走者） 審判員はスピード化を図るため、プレーヤーが負傷などで治療が長引く場合は、相手チームに伝え、試合に出ている9人の中から代走（打順の前位の者、ただし投手および捕手を除く）を認めて試合を進行させる。 (規則5.10e【原注】関連)	46	(33) 試合に出ているプレーヤーの代走が認められる場合（臨時代走者） 審判員はスピード化を図るため、プレーヤーが負傷などで治療が長引く場合は、相手チームに伝え、試合に出ている9人の中から代走（打順の前位の者、ただし投手および捕手を除く）を認めて試合を進行させる。 臨時代走の役割は、アウトとなるか、得点するか、またはイニングが終了するまで継続する。 (規則5.10e【原注】関連)
43	(36) 規則6.02c項中の(4)の「ボールに異物をつけること」および(5)の「どんな方法であってもボールに傷をつけること」は規則どおり実施するが(1)、(2)、(3)は採用しない。	47	削除
115	15【問】 走者二塁、遊撃ゴロが野手の直前でイレギュラーバウンドして遊撃手の頭上をはるか高く越えた。その直後を走っていた二塁走者に当たった。どう処置したらよいか。 【答】 ボールデッドとなり、二塁走者をアウトにし、打者には一塁を与える。(6.01a(1)、規則適用上の解釈(1))	119	15【問】 走者二塁・三塁で、遊撃ゴロが野手の直前でイレギュラーバウンドして遊撃手の頭上を高く越えた。その直後を走っていた二塁走者に当たった。どう処置したらよいか 【答】 成り行きでインプレイである。 (6.01a(1)、規則適用上の解釈(1))
159	3 投手が投球する際に1度離れた両手を再び合わせたり、投げ手でグラブをたたいたりすることを禁止する。(注意指導)	163	3 投手が投球する際に1度離れた両手を再び合わせたり、投げ手でグラブをたたいたりすれば「ボーク」が宣告される。
161	審判員の服装 ○紺色の上下服に限らず上下異色のものでもよい ○ワイシャツのほか、ハイネックやタートルネックのシャツでもよい。	165	審判員の服装 ○都道府県支部が定めた審判服を着用する。
165・166	投球の判定	169・170	投球の判定 4、申告による故意四球 守備側の監督がタイムを要求し打者を故意四球とする意思を球審に示した場合は、ボールデッドとしタイムのジェスチャーを行い、打者に一塁へ進塁の指示を行う

174・175	ハーフスイング、チェックスイング ○宣告用語 球審=「振った?」 塁審=「スイング」、 「ノースイング」	178・179	ハーフスイング、チェックスイング ○宣告用語 球審 = 「振った?」 "Did he go?" 塁審 = 「スイング」 "Yes, he went" 「ノースイング」 "No, he didn't go."
183	試合の終了	187・188	試合の終了 ○コールドゲーム <u>降雨のためにコールドゲームとなった場合、球審がホームプレートに出て「ゲーム」を宣告する。大会本部で両チーム監督に対し、コールドゲームになる旨を説明して場内放送を行う。</u>
「連盟規程細則」の改定			
34	(チーム編成等) 4 一般チームは、競技及び開会式には10名以上参加しなければならない。少年チームは、競技及び開会式には監督・コーチ・参加届に記載された選手全員参加しなければならない。 ただし、特別の事情が生じたと大会委員長が認めた場合は、この限りではない。	34	(チーム編成等) 4 一般チームは、競技および開会式には10名以上参加しなければならない。少年チームは、競技及び開会式には監督・コーチ・参加届に記載された選手全員参加しなければならない。 ただし、特別の事情が生じたと大会委員長が認めた場合は、この限りではない。 <u>10人で試合を開始したが事情で9人になっても試合は続行するが、怪我等によりチームが守備に9人つくことができないか、その打順で打つことができなくなったときは、没取試合となって相手チームに勝ちが与えられる。正式試合になっていれば記録は残る。</u>
38	(不正に関する措置等) (2) 試合終了後に発覚した場合は、次の対戦相手に勝利を与える。	38	(不正に関する措置等) (2) 試合終了後に発覚した場合で、 <u>勝利を与えられるチームが、何らかの理由により次の試合ができない場合は、次の対戦相手に勝利を与える。</u>
39・40	(用具、装具等) 第12条 連盟主催大会及び…2 連盟公認球は、次のとおりとする。 <表> 3バットは、公認野球規則で規定されるもののほか、次による。 (3)バットの使用区分は、次による。 ア 少年用と表示されているものは、C号及びD号ボールに使用 イ 少年用と表示されているもの以外は、M号、B号及びC号ボールに使用	39・40	(用具、装具等) 第12条 連盟主催大会および…2 連盟公認球は、次のとおりとする。 <表> 3バットは、 <u>公認野球規則</u> で規定されるもののほか、次による。 (3)バットの使用区分は、次による。 ア 少年用と表示されているものは、 <u>J号</u> およびD号ボールに使用 イ 少年用と表示されているもの以外は、M号および <u>J号</u> ボールに使用